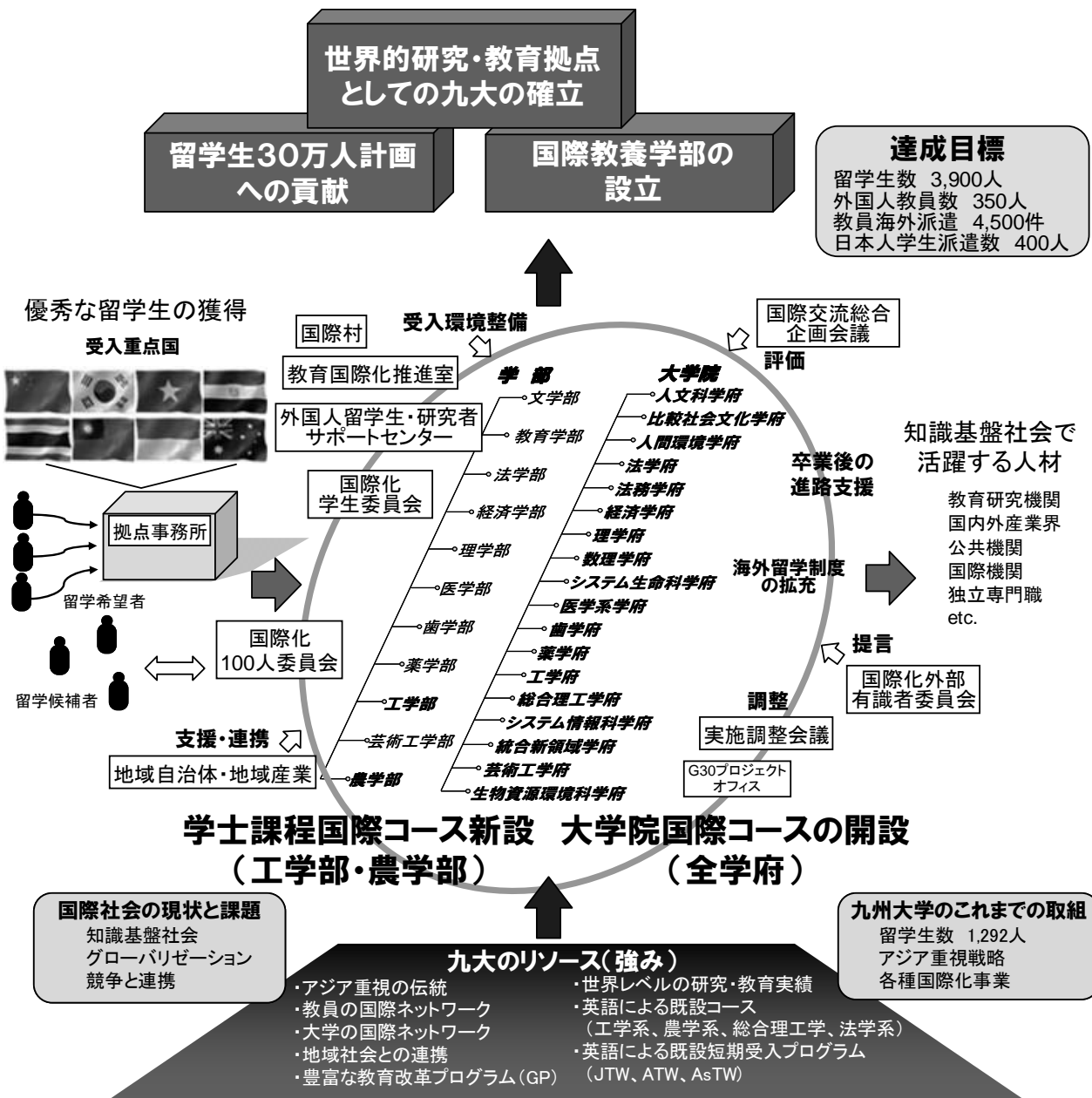


拠点大学の概要及び採択理由

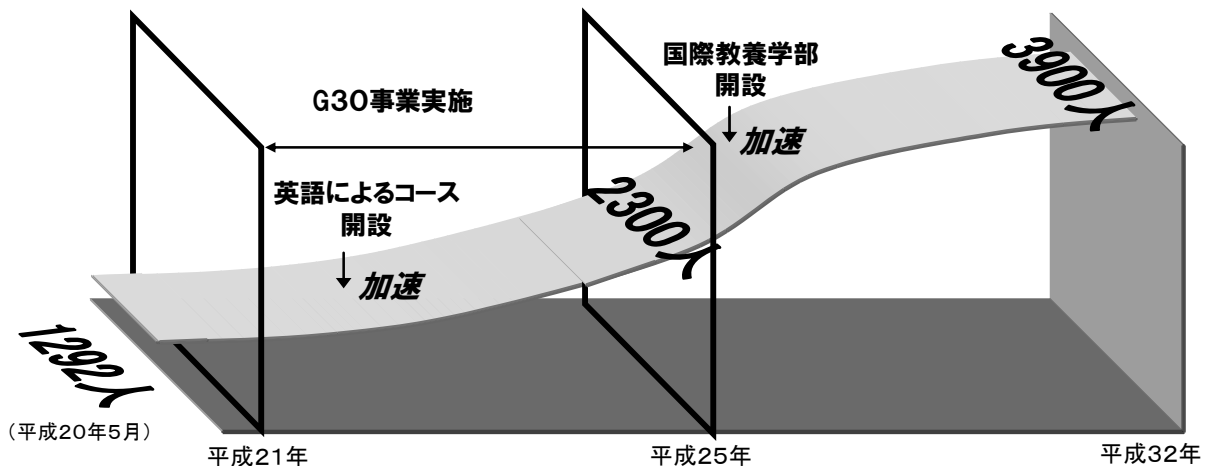
機 関 名	九州大学
〔国際化拠点の構想の概要〕	
構想の背景と理念：世界的研究・教育拠点を目指して	
<p>九州大学は1911年に創設され、教員(定員内)2,224人、職員2,607人、学生18,647(うち留学生1,292人)を擁し、毎年度、修士約2,000件、博士約570件の学位を授与するとともに、科学研究費補助金約1,500件のほか多くの競争的研究資金を獲得するなど、高い教育研究水準と実績を有している。本学は「人間性の原則」「社会性の原則」「国際性の原則」「専門性の原則」の教育理念に則り教育を推進するとともに、地理的・歴史的な特性を活かしアジア重視戦略を展開している。特に、グローバルCOEプログラム等を通じて、国際共同研究や国内外の優れた若い人材の育成に取り組んでいる。</p> <p>知識基盤社会がグローバルに進展し、経済・産業も地球規模での展開が当然に要請される時代となり、国境を越えた学生・教員・研究者の流動性が高まる中で、国際競争力の向上が我が国の将来を決定付ける課題となっている。このため、本学は平成23年の創立100周年を機に、九州に世界の研究者と学生が集約する魅力ある拠点を創出するべく、次期中期計画に一層の留学生交流の拡大と外国人教員・研究者の受入増などを盛り込み、今後5年間で留学生の入口から出口までの一貫した国際化拠点整備を行い、世界に開かれた教育研究環境を構築する。その成果の上に平成32年度までに、全学部横断的に英語による教養教育を行う国際教養学部(仮称)を創設し、アジアを代表する世界的研究・教育拠点大学を目指す。</p>	
国際化拠点整備事業による取組	
①人材育成の理念と実現方法：国際キャンパスの構築を目指して	
<ul style="list-style-type: none">●留学生が本学の特色ある優れた専門科目の修得だけでなく、日本文化理解など魅力ある教養科目の修得が可能なカリキュラムを設計する。これにより、真の日本理解に基づき、国内外の産業界、国際機関、教育・研究機関等で活躍できる国際的な人材を育成する。●産業界や国際機関等で活躍する外部有識者から成る「国際化外部有識者委員会」を設置し、国内外で活躍が期待される留学生像を諮問し本学の教育に反映させる。●本学学生による「国際化学生委員会」を設置し留学生と日本人学生との交流を促進するとともに、異文化理解や外国語でのコミュニケーション力を強化するプログラムの充実、交換留学や海外留学制度の拡充により、日本人学生を含めたキャンパスの国際性を向上させる。	
②優秀な留学生の獲得：九州大学独自の国際ネットワークの活用	
<ul style="list-style-type: none">●アジア6か国(中国・韓国・台湾・ベトナム・タイ・インドネシア)にオーストラリアとエジプトを加えた受入重点国を設定し、本学が有する海外オフィスの整備・強化により、留学希望者へのプロモーション活動、優秀な学生の発掘、書類審査や面接等により厳正な選抜試験を現地で実施する。また、ベトナム、エジプト等を本事業の海外大学共同利用事務所とし、他大学とも協力して我が国への留学の促進・支援を行う。●国際的に活躍する本学の「スター研究者」から成る「国際化100人委員会」を設置し、研究者個人のネットワークを通じて、海外有力大学の教授からの推薦などにより、全世界から優秀な留学生を獲得する。●優秀な学生を継続的に受入れ手厚い教育を行うことにより、留学生受入数の目標として、平成25年度までに2,300人(1,000人増)以上、平成32年度には現在の3倍の3,900人に拡大する。	
③国際水準の教育体制の整備：英語コースの新設・拡充と教員の国際化	
<ul style="list-style-type: none">●英語授業のみで学位が取得できるコースとして、学士課程では農学部と工学部で新設するとともに、大学院課程(学府)では全学府で開設する。学部英語コースは全学的な国際教養学部(仮称)に発展させ、留学生と日本人学生が共に高度な教養を学ぶコースにする。●外国人教員については、本学独自の「Distinguished Professor(主幹教授)制度」による国際的に著名な教授の招聘などにより、大幅な増員を行う。●日本人教員の国際化のために、国や研究支援機関の若手研究者海外派遣事業等を活用して教員を海外へ派遣し、海外の大学での教育手法や授業スキルをFD等により学内に波及させる取組を実施する。	
④留学生受入環境の整備：大学と地域が一体となった支援の強化	
<ul style="list-style-type: none">●渡日後の留学生に対しては、日本語教育を行うとともに、福岡県・福岡市など地域の自治体と定期的な連絡・協議を行い、地域の企業や留学生支援組織との連携を強化して、安全・安心な学業生活を支援する。●統合移転が進む伊都キャンパスに留学生と日本人学生の混住宿舎などを「国際村」として整備し、大学と地域が一体となった受入環境を構築する。●「G30プロジェクトオフィス」を設け、教員、事務職員、部局の枠を超えた全学実施体制を整備する。	
⑤卒業後の進路支援：学内外の連携による実効性ある出口支援	
<ul style="list-style-type: none">●本学の海外オフィスや留学生同窓会組織を通じた就職支援を行う。●「国際化外部有識者委員会」による国内外での就職広報活動を展開する。●「国際化100人委員会」による企業への就職支援や大学・研究機関の研究者ポストへの斡旋を行う。福岡県・福岡市など九州各県の自治体や地元企業との協力による就職支援を行う。	

【九州大学】

[国際化拠点の構想の概要]



留学生拡大のシミュレーション



大 学 名	九州大学
-------	------

〔採択理由〕

九州大学の国際化に関する実績やこれまでの取組が非常に優れており、今後の留学生の受入の更なる充実が大いに期待できる。国際化拠点の整備のための構想は、英語による授業のみで学位が取得できるコースを学部、大学院ともに多様な分野にわたり開設する計画となっており、その規模も大きく、本事業の実施に向け組織的な体制の強化も図られていることから、留学生の大幅な受入増加が期待され、本事業の趣旨に十分適合していると評価できる。また、その実現性も高く、我が国を代表する国際化拠点としての成果と今後の展開が十分に期待できる。

〈特に優れた点、期待できる点、留意すべき点〉

- ・本事業において開設される学部における英語による授業のみで学位が取得できるコースは、将来、国際教養学部(学部1、2年)として組織的に発展させる計画がなされているなど、実現性や将来性において優れた取組であると高く評価できる。
- ・自治体等と連携したサポートセンターを設置し、留学生への経済的支援や企業への就職支援を充実させるなど、地域との連携に関する大学の実績や特性を十分に活かしたプログラムとなっていることも高く評価できる。
- ・日本人学生の海外派遣については、派遣者数の大幅な増加の実現のため、組織的な取組を充実することが望まれる。